

令和元年度第2回「岐阜県男女共同参画二十一世紀審議会」議事要旨

日 時	令和元年2月13日（木）10：00～11：30
場 所	岐阜県議会西棟（岐阜市）2階 第3会議室
出席委員	近藤委員、杉山委員、国枝委員、栗本委員、篠田委員、時田委員、長谷部委員、平田委員、廣瀬委員、見田村委員、山崎委員、吉田委員（以上、12名）
欠席委員	伊在井委員、木村委員、藤田委員（以上3名）
県（事務局）	北川子ども・女性局長、安江同副局長、赤地男女共同参画・女性の活躍推進課長、原男女共同参画・女性の活躍支援センター長、古田子育て支援課長、山田子ども家庭課長、ほか

会 議 の 概 要

<p>1 議題（1）令和元年度事業実績について （2）令和2年度当初予算の概要について ・事務局から資料に沿って説明した。</p>	
<p>2 意見交換</p>	
委員	<p>男性の育児休業取得率が平成30年度（6.2%）から令和元年度（6.3%）にかけてあまり伸びていないが何か理由はあるか。 また、自分は建築業に携わっているが、現場では高齢の方が多く働いており、深刻な人手不足を感じている。男性の育児休業取得はこういった人手不足にも影響すると考えられるが、何か考えがあればお聞きしたい。</p>
事務局	<p>男性の育児休業取得率について、平成29年度は2.3%とさらに低く、平成30年度にかけて大きく伸びている。国の令和元年度数値は6.16%であり、岐阜県は全国平均程度である。国においても、男性の育児休業取得が進んでいないことを課題として捉えており、対策を取ろうという状況になっている。 アンケート結果によると、他の人が自分の仕事をカバーできる体制ではないこと等を理由に、育児休業を取りたくても取れないと回答した方が30%程度いる。人手不足に対しては、就職氷河期の方の労働機会の確保や、高齢者や外国人の労働力の活用など、県全体で課題に取り組んでいく必要がある。</p>
委員	<p>自分が相談を受ける中で、夫が育児休業を取ってくれることはよいが、何もしてくれないという方が多くいる。父子手帳を作成・配布とあるが、これを読んでどれほど変わるのか、という気がする。</p>
委員	<p>男女共同参画の実現や女性の活躍推進のためには、センターが実施する個別相談など、一人一人の悩みを何とか解決していくという草の根的な活動が大切である。 その中で最近では、LGBTについて皆がこの言葉を口にし、様々なことを考える時代に入ってきたと感じている。LGBT 専門相談における相談件数も伸びてきており、事前に予防的に相談できるということはとてもよい。相談内容の変化についてお聞きしたい。</p>

事務局	<p>LGBTについては平成30年度から専門相談を開始した。今年に入り、ずっと相談をしたいと思っていたが逡巡しており、思い切って相談してみたというものや、保護者からの子どもに対する相談などが増えてきており、件数にも反映されているところである。</p> <p>他の相談も含め、相談者の声から、男女共同参画の様々な課題や、女性が置かれている現状を汲み取り、施策や計画に反映してきたところである。</p>
委員	<p>相談対応は手間のかかることであるし、細心の注意を払わなければいけない苦労があると思うが、ぜひそういった声を施策に繋げてほしい。</p>
委員	<p>エクセレント企業の認定数が増えていることはとてもよいが、自分が働く会社が認定企業であることを知らないという方が結構いる。</p> <p>働く側が実感していないから知らないということなのか、どちらかというところと企業側の満足でやっている部分もあるのではないかと感じる。</p>
委員	<p>エクセレント企業を目指すよう周囲の企業に働きかけようとするが、様々な理由をつけて線を引かれてしまうことが多い。そういった中で認定を受けている147社は「このままではいけない」という現状認識の中で大きな一歩を踏み出した企業である。取組みは各社様々であり、実感が従業員一人一人に行き渡らないということもあるかもしれない。</p> <p>エクセレント企業は認定を受けてからがスタートだと考えている。ずっと変わり続けるという覚悟を会社としてもてるかどうか重要であり、その覚悟を持ってない企業には、「できない」という線を引かれてしまう。</p> <p>今後は、認定企業の周知などにも取り組んでいただき、盛り上げていただきたい。</p>
委員	<p>自信を持って認定企業で働いていると言えるとよいが、認定企業であることを知らない方も意外といて、社内での啓発も必要と感じている。</p>
委員	<p>センターが実施する相談業務について、どういった方が相談員をされているのか、また、男性専門相談ではどういった相談があるのか。</p>
事務局	<p>就労・子育て相談は、キャリアカウンセラーの資格を持った者が面談で対応している。</p> <p>一般電話相談は相談経験のある者、LGBT電話相談はLGBTに造詣の深い者や相談経験のある者、男性専門相談は男性相談に係る専門的知識がある者が相談員を務めている。</p> <p>一般電話相談でも男性からの相談を受けているが、相談員が女性ということもあり、男性相談員に話を聞いてほしいと思われる方からの相談を男性専門相談でお聞きしている。</p> <p>男性専門相談では、人間関係や社会での孤立についての相談が多い傾向にある。</p>
委員	<p>資料中、「男性の家事・育児参加」とあるが、参加することが最終目的と受け取られかねないので、気をつけていただきたい。</p> <p>女性の起業講座は、スタートアップの支援ということで有意義であると考えるが、女性の起業はどうしてもB to Cの、規模の小さな事業になりがちであり、なかなか続かないのが実情である。初級と中級の講座があるが、それぞれの内容についてお聞きしたい。</p>

事務局	<p>初級はこれから起業をしたいと考えている方を対象に、中級は既に起業をしている方を対象に始めたが、実際には、既に起業をしている方も初級講座に参加され、初級講座の段階から法律的な内容なども交えながら実施している。中級講座では、具体例を用いたケースワークも併せて行っている。</p> <p>当センターでは、初級と中級の講座しか実施していないが、もう少し先に進みたい方のために、商工政策課から情報を入手し、希望者に展開している。</p> <p>来年度からは、事業を長く続けたい方や拡大したい方のことを考え、年度の早い段階で、初級・中級講座を実施し、少しでも早くその先の専門的な内容に触れられる機会をもっといただけるようにしていきたい。</p>
委員	<p>他県などでも同じような講座を実施しているが、一度受講した方が数年後に再度受講するといった傾向がみられることから、ステップアップしたいと考えている方に対しては、スピード感を持って支援していただくとよい。</p>
委員	<p>地域ダイバーシティについて、賛同企業のみから参加者を募るのか、広く募集を行うのか仕組みをお聞きしたい。</p>
事務局	<p>基本的には賛同企業から参加者を募ることとしている。賛同企業を増やすことも重要であり、賛同企業以外にもこの活動を知ってもらうために、活動内容を広報するとともに、先日開催した会では、初めて賛同企業以外にも声かけをし、輪が広がるように取り組んでいる。</p>
委員	<p>基礎講座について、子どもが段々大人になって自分づくりをしていく際に、タイムリーにこういった講座を受け、自分の世界を広げることはとても重要だと思う。</p> <p>最近では、例えば学校にトイレができる場合に、女の子はピンク、男の子はブルーといった刷り込みをやめるなど様々なことが変わってきている。</p> <p>発達の段階に応じて、刷り込みをしない教育を考えていく必要があり、教職員も自分たちの感覚を常に世の中に合わせられるよう努力しているところである。</p> <p>ただし、社会の課題を全て学校が受け止めようとする、多様すぎて膨大になってしまう。様々な課題に対し、どの時期にどんな内容をどのように学習していくと効果的なのか、自分たちも研修していこうと考えている。</p>
委員	<p>高校でデートDVの講師を行っているが、今どきの子は小学校時代から男女共同参画に関する教育がされているにも関わらず、「男らしさの何がいけないのか理解できない」などといった感想を聞くことがあり、親の教育の影響が大きいと感じるし、学校の先生の中にもそういった考えを持つ方がいると感じている。</p> <p>多胎児、低出生体重児、ダウン症児の成長発達の特徴に応じて母子健康手帳を補完する「子育て支援手帳」を作成・配布するとのことであるが、この3者に限った理由はなにか。</p> <p>例えば、最近では、酸素ボンベを持って歩くことができ、知的にも問題がない、動ける医療的ケア児が随分増えてきている。そういった子たちは、多胎児などと同じように考えてもよいのではないか。</p>
事務局	<p>色々な声をお伺いする中で、この3つの児については、特に成長曲線等が違ふということで、通常の母子手帳では、成長曲線を記入する欄がないなど、かえって不安になるということから、子育て支援という観点で、この3つの児について取り組んでいくこととしている。</p>

委員	<p>医療的ケアが必要な子が増えてきており、子育てに関して困っている親が多くいる。母子手帳に関する困りごとは、3つの児と同じであり、特定してしまうことがどうなのかと感じる。もう少し聞き取りをしてもらえるとよいのではないか。</p>
委員	<p>令和2年度当初予算について、今はどちらかというとも母子家庭よりも父子家庭の方が企業側からの理解を得られにくく、ひとり親ということにもう少しクローズアップした対策、支援を実施していただきたい。</p> <p>また、女性消防団員が活躍しやすい環境づくりということで、軽自動車や軽可搬ポンプの整備などを支援するとあるが、これは市町村からの要望に基づき事業化されたものなのかお聞きしたい。</p> <p>消防団員確保についての報道がなされるなど、女性消防団員を確保することは難しく、今の時代に必要なのかという議論が出ている中で、軽自動車などの整備を支援することで、市町村が無駄な経費を支出することとなる可能性もあるため、社会実態に応じた取組みをしていただきたい</p> <p>エクセレント企業の拡大促進について、エクセレント企業が人材確保等に繋がる取組みを行った場合に、必要な経費の一部を助成するとあるが、具体的にどういった経費を助成するのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>父子家庭への支援については、既に来年度当初予算の形が出来上がっていることもあり、工夫できる部分があればそういった観点も入れさせていただく。また、令和3年度以降の施策の検討にあたり参考とさせていただきたい。</p> <p>【補足（山田課長）】</p> <p>県では、ひとり親家庭等就業・自立支援センターを設けており、ひとり親の方に対する就業相談や講習会など様々な支援を実施している。</p> <p>今年度からは、夜間の相談窓口を展開するなど、まずは相談に来ていただくための取組みを実施している。</p> <p>センターを知っていただくことも重要と考えており、市町村がひとり親の方々に現況届を郵送する際に、センターのチラシを同封するなど積極的な周知を行っている。</p> <p>女性消防団員に関する事業については、確認し後ほど回答させていただく。</p> <p>【補足（赤地課長）】</p> <p>担当課において当初予算要求を作り上げる時点では、市町村のニーズを把握したうえで予算を積み上げている。担当課には、市町村の声を丁寧に聞き、仕組みを考えるようお伝えさせていただく。</p> <p>エクセレント企業の補助金の拡大について、認定されている企業がエクセレント企業であることを魅力として打ち出して、合同企業説明会等にブースを設けるといった活動をする際の経費などを1/2で支援するものである。</p>
委員	<p>テレビで就活セクハラが取り上げられていた。企業側は社員にはセクハラをしないが、就活生に対してはセクハラに対するハードルがなく、就活生自身もその企業に就職したいがために我慢をするとのことであった。</p> <p>そういった中で、学生はどのように自分の身を守りながら就活をして、どこまで我慢し、どこまで訴えてよいのかという内容であった。</p> <p>高校生や大学生が勉強をし、知識を持つことができれば、そういったことに対応する力に繋がるのではないか。</p>

委員	<p>大学では必ずしもこういった問題を理解している方が就職支援を担当しているわけではない。授業の中ではこういった問題を取り扱っているが、具体的にそういった訴えが届いていないこともあり、旧態依然の就職指導になってしまっているように感じている。</p>
委員	<p>県が1年を通して様々な活動をされているのだと改めて知った。委員という立場にあって、こういった活動をあまり把握していなかったことは恥ずかしいことであるが、一般の方には余計に知られていないのではないかと。出前講座などの活動をPRすることも必要であるし、そういった活動に関心を持ってもらうことが活動の第一歩であると考えます。今後もこういった活動を積極的に続けていただき、一人でも多くの方に参加してもらえるとよい。</p>
事務局	<p>今年講座の講師を務めさせていただく中で、市町村の担当者、特に県民の方と直接接する窓口担当の方の理解を深めるということが大切であり、実際にその方々と接しながら実情を掴んでいくことが大事であると感じた。</p>
委員	<p>10年程前に、子どもを産み育てやすい社会に情勢が動くとういと考えていたが、平成時代に、団塊ジュニア世代がもう一つ団塊世代を作ることではできなかった。令和時代に入り、人口減少社会の中で、男と女という観点も大切であるが、より広い意味での多様性を社会全体が受け入れていく覚悟を一人一人が持つことが必要になってくると考えている。</p> <p>商工会議所の青年部などでは、大きく世代交代が起ころうとしている。若い世代はもっと家庭や育児に参加したいという意識が高く、そういった世代の方々が自分たちと社会との繋がりを作ることができるいいチャンスとなるのではないかと感じている。</p> <p>男女共同参画社会、女性の活躍も含めてより広い意味での多様性が認められるような社会が実現する、いい時期になっていくとういと考えている</p>